

皇籍離脱した旧皇族 11 家

葛南支部 小浦泰之

(はじめに)

前回の歴史研究会で旧宮家である東伏見家についてお話をさせていただきましたが、終戦後に皇籍を離脱された皇族家は、東伏見家を含めて 11 宮家ございました。

今回は 11 宮家がその後どのような経緯をたどっているのか、それぞれの宮家にまつわるエピソードを交えながらご紹介していきたいと思います。

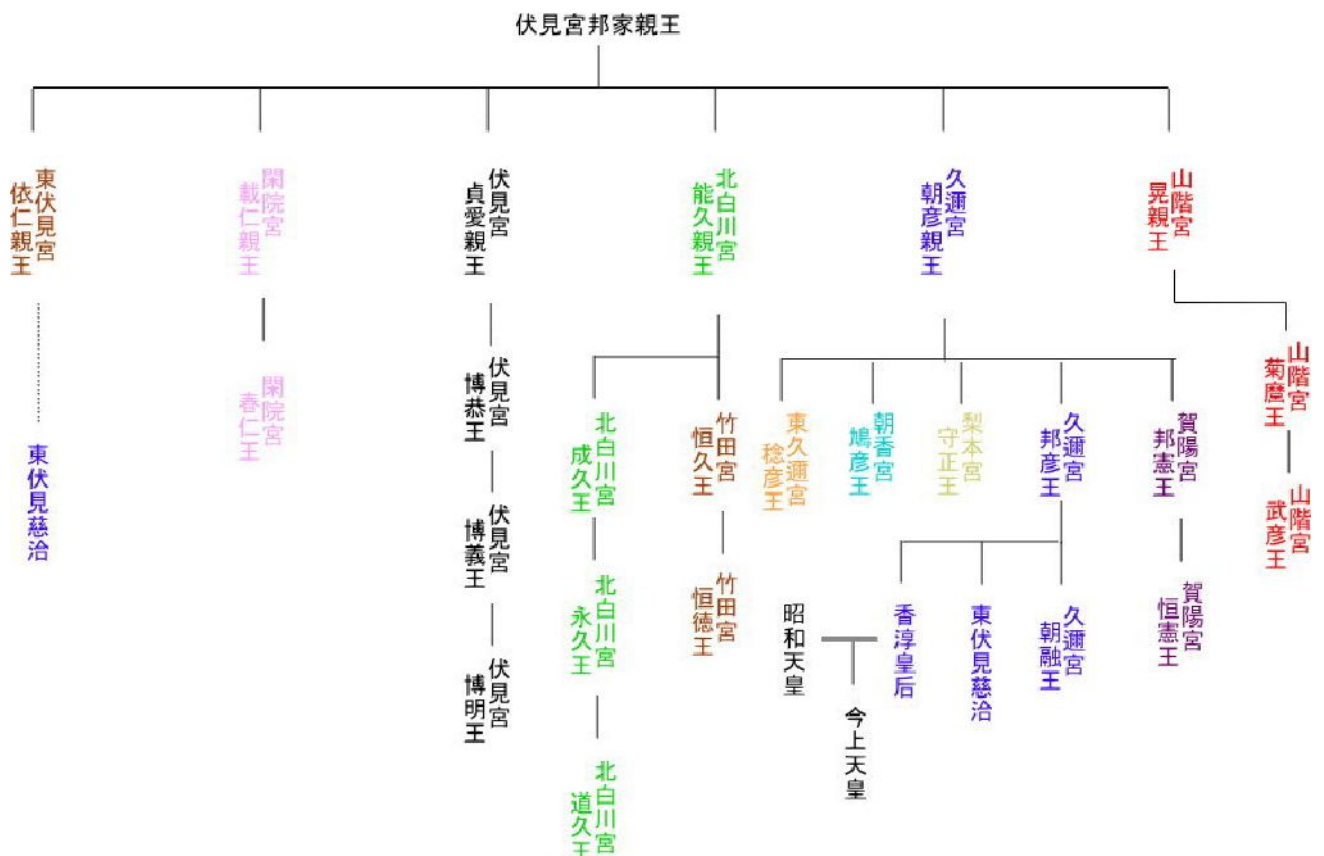
(1) 旧宮家の成り立ち

旧皇族である 11 宮家は、全て北朝第 3 代天皇である崇光天皇の第一王子「栄仁（よしひと）親王」を祖とする伏見宮家の男系子孫にあたります。現在の皇室の方々もこの伏見宮家の男系子孫です。伏見宮家は世襲親王家の筆頭で、親王宣下を受けなくても親王の身分が保証されていました。

11 宮家はいずれも、明治期に伏見宮家の第 19 代貞敬親王及び第 20 代・第 23 代邦家親王の王子が還俗して、宮家を創設もしくは継嗣のいない宮家を相続したことに起源を有しています。

ただし、この時期に新立した宮家に関しては 1 代限りとして、2 代目からは臣籍降下させて華族に列することとし、世襲は想定されていませんでした。

<略家系図>



（２） 皇籍離脱

終戦に伴い、GHQ による統治が進む中、経済的に従来の皇室規模を維持できなくなり 11 の宮家は皇籍を離脱しました。

離脱にあたり GHQ の指示で財産税法案が衆議院に提出され、最大 90% の高税率の課税が皇室の個人資産にかけられることとなります。多くの宮家は税金を工面できなかったため、物納せざるを得ませんでした。その後皇籍離脱一時金が各宮家に支払われますが、財産税を十分に補てんできる額ではありませんでした。一時金は各宮家の人数により定められました。

宮家	課税額	離脱一時金						
		当初額	当主・王	王	親王妃 内親王	王妃	女王	支給額
伏見宮	610 万円	315 万円	1 人	0 人	0 人	1 人	2 人	465 万円
閑院宮	420 万円	210 万円	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	105 万円
山階宮	92 万円	158 万円	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 万円
北白川宮	654 万円	338 万円	1 人	0 人	1 人	1 人	1 人	540 万円
梨本宮	257 万円	257 万円	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	105 万円
久邇宮	539 万円	840 万円	0 人	3 人	0 人	2 人	4 人	944 万円
賀陽宮	107 万円	840 万円	0 人	5 人	0 人	1 人	0 人	830 万円
東伏見宮	120 万円	113 万円	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	150 万円
竹田宮	465 万円	525 万円	0 人	2 人	0 人	1 人	2 人	545 万円
朝香宮	844 万円	525 万円	0 人	1 人	0 人	1 人	2 人	400 万円
東久邇宮	226 万円	675 万円	0 人	2 人	2 人	0 人	1 人	665 万円

※山階宮家は支給額が 0 円だが、後日密かに 140 万円が支給された。

（３） 断絶した旧皇族家

閑院宮家・・・世襲親王家の一つ。皇籍離脱時の当主、春仁王の死去により 1988 年（昭和 63 年）断絶。ただし閑院宮家出身の師仁親王（光格天皇）の子孫は現天皇家。

山階家・・・皇籍離脱時の当主：武彦王の死去により 1987 年（昭和 62 年）断絶。

梨本家・・・皇籍離脱時の当主：守正王の死後、未亡人の伊都子が甥の梨本徳彦を養子とした。実子系統では断絶。

賀陽家・・・皇籍離脱時の当主：恒憲王の死後、長男：邦寿が 1986 年（昭和 61 年）に死去し、断絶。ただし三男：章憲には男子の子孫がある。

東伏見家・・・皇籍離脱時に依仁親王妃周子のみ。彼女の死去により 1955 年（昭和 30 年）断絶。ただし祭祀は東伏見慈治氏が継承。

（４）現存する旧皇族家

伏見家・・・現当主：伏見博明氏（モービル石油顧問、有限会社日本文化振興会総裁）

久邇家・・・現当主：久邇邦昭氏（元伊勢神宮大宮司、元神社本庁統理、前霞会館理事長）

北白川家・・・現当主：北白川道久氏（前伊勢神宮大宮司、霞会館理事長）

朝香家・・・現当主：朝香誠彦氏（東京庭園美術館顧問、日台文化協会理事）

竹田家・・・現当主：竹田恒正氏（公益財団法人日本ゴルフ協会会長）

東久邇家・・・現当主：東久邇信彦氏（全日本野球会議名誉会長、財団法人日タイ協会常務理事）

（５）各宮家にまつわるエピソード

伏見宮家・・・伏見宮家 25 代当主の博恭王は皇族として初の軍令部総長となります。当時軍令部課長だった井上成美は王の総長就任に断固反対の姿勢を取り更迭されますが、王は井上を高く評価し、井上は異例の速さで少将に昇進しました。現在では海軍内の条約派を追放し、日米開戦の元凶を作った人物と批判的に評価されているようです。妃は、徳川 15 代将軍徳川慶喜の 9 女経子妃でした。

閑院宮家・・・皇籍離脱時の当主春仁王は同性愛者だったため、妃と離婚しています。海軍軍人だった頃の当番兵と親しくなり、太平洋戦争後も彼を閑院家の執事としていたようで、夫人が寝ている横でその執事と同衾していたようです。その夫人も戦時中、他の男性との間に子を儲け、中絶するという出来事がありました。今の皇室では考えられない出来事ですね。

山階宮家・・・皇籍離脱時の当主武彦王は、海軍航空隊所属で自宅に搭乗員養成所を作るほど飛行機に傾倒した人物でした。大正 11 年に賀陽宮家佐紀子女王と結婚しますが、翌年の関東大震災で佐喜子妃が薨去してから精神に変調を来し、自宅の離れで近習の者以外とは接触を避けて暮らします。この生活は王が死去するまで 60 年以上続きました。山階鳥類研究所は弟の芳麿王が創設しました。

北白川宮家・・・能久王、成久王、永久王と当主が三代続いて不慮の死を遂げました。能久王は台湾征討の近衛師団長として出兵中マラリアに罹患して薨去。成久王はフランスに遊学中、自動車の運転を誤り猛スピードで立ち木に衝突して薨去。永久王は中国で陸軍の演習参加中に不時着した飛行機に衝突され薨去。皇籍離脱時の当主道久王はご存命で、神社本庁の統理などを務めています。

梨本宮家・・・皇籍離脱時の当主守正王は、皇族で唯一 A 級戦犯に指名されました。王は軍務には無関係でしたが、戦時中伊勢神宮の祭主を務めていたことから、国家神道の頭目とみなされ、戦犯指名されたようです。のちに証拠不十分ということで釈放され、東京裁判で裁かれることはありませんでした。息女の方子女王は大韓帝国皇太子と結婚し、戦後韓国に移住、平成元年に死去しました。

久邇宮家・・・皇籍離脱時の当主朝融王は、戦後『久邇香水』の製造販売を手掛ける等幾つかの事業を興すもいずれも失敗に終わります。赤字の穴埋めのために熱海と赤倉の別邸や麴町の本邸を次々と売り出し、住まいをことごとく失いました。生活に窮した朝融は、東本願寺に嫁いでいる妹の智子裏方に頼み、当時米国に留学中だった大谷光紹の住まいである成護院別邸に入り込むことも考えていたのですが、門徒代表の猛反対で失敗に終わります。不遇のうちに昭和 34 年死去。

賀陽宮家・・・皇籍離脱時の当主恒憲王は野球が好きな皇族で「野球の宮様」と呼ばれ親しまれていました。アメリカに遊学中ニューヨークヤンキースの試合を観戦したり、日本に大リーグの選抜チームが来た時には夫人と共に試合を観戦しています。陸軍中將でありながら日米開戦には反対の立場で、昭和天皇に早くから終戦の聖断を仰いでいました。

東伏見宮家・・・前回の歴史研究会で詳しくご紹介しましたが、今回は終戦後のエピソードをご紹介します。終戦後、物資が配給制となり、皇族といえども物資を手に入れるのに一苦労な時代がありましたが、東伏見慈治氏は家令に命じて関係各省に圧力をかけ、通常より多くの物資を手に入れていたようです。高松宮の日記でその浅ましさを批判されています。

竹田宮家・・・皇籍離脱時の当主恒徳王は、陸軍軍人で、大本営参謀としてフィリピン攻略戦、ガダルカナル島の戦いなどに参画、常に最前線に出たがり、周囲をハラハラさせていたようです。戦後は日本オリンピック委員会の委員長を務め、現在は 3 男の恒和氏が同じ職を務めています。恒和氏のご子息は評論家として活躍中の竹田恒泰氏です。

朝香宮家・・・明治天皇の皇女の嫁ぎ先として創設されました。創設者の鳩彦（やすひこ）王は弟となっている東久邇稔彦王より 2 ヶ月後に生まれましたが、父朝彦親王が鳩彦王の生母を寵愛していたため、兄弟の順が入れ替えられました。そのため皇族の戸籍簿である皇統譜では鳩彦王が兄となっています。鳩彦王と第一王子の孚彦（たかひこ）王とも陸軍軍人でした。

東久邇宮家・・・東久邇稔彦王は、終戦後の総理大臣に就任し、降伏文書の調印を行いました。GHQ との対立からわずか 54 日で退陣し、歴代内閣で最短の在任期間となっています。この東久邇稔彦王については面白いエピソードが多くあるのですが、紙幅の関係上今回は割愛いたします。

（6）最後に

執筆にあたり、皇室について色々と調べていくと、今まで知らなかった興味深い事実が次々に判明し、ますます歴史の面白さを体感しました。

次回は、今回紹介できなかった大韓帝国皇室と日本の皇室の関わりや、東久邇稔彦の生涯について、もしくは幕末の志士入江九一について執筆をしようと考えています。うーん、悩みますね。

最後までご拝読ありがとうございました。